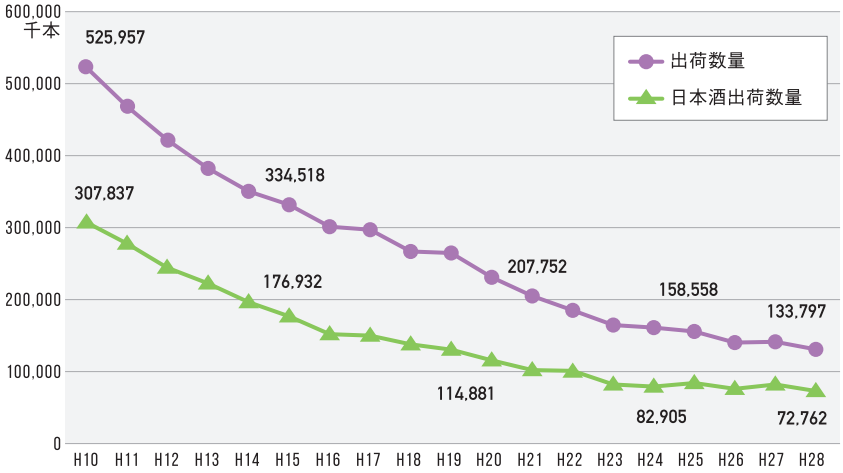
3 出荷量と回収率の推移

日本酒と1.8ℓびんの出荷量減少

1.8ℓびんの出荷量は1998年（平成10年）度では5億2600万本ありましたが、現在では約1億3000万本まで減少しています。日本酒と1.8ℓびん出荷量は同じような減少傾向を示していることから、1.8ℓびんが減った要因のひとつは1.8ℓびんを使ってきた日本酒の出荷量の減少だといえます。また大容量の容器として紙パックへの移行や中・小型びんへの移行も大きな要因だと考えられます。



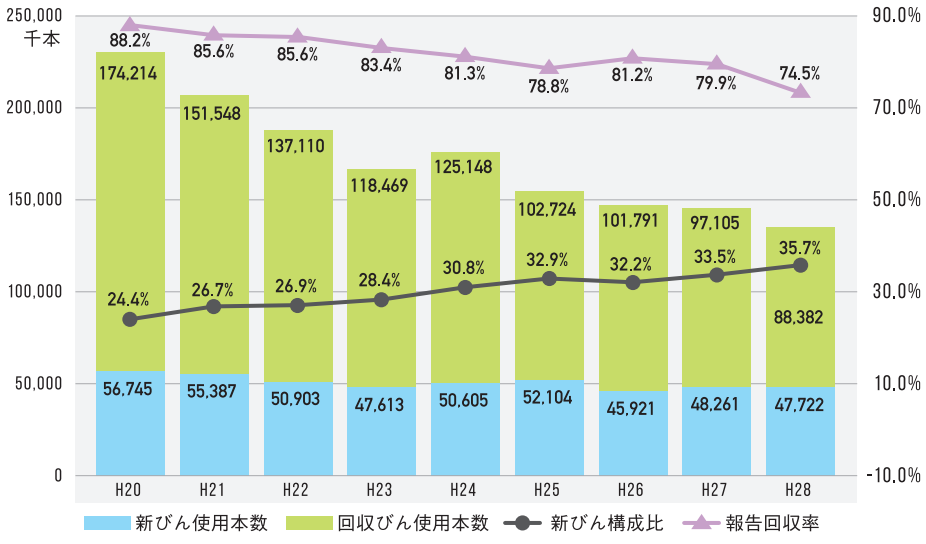
出典：1.8L壜再利用事業者協議会

1.8ℓびんは今も回収びんが主体

1.8ℓびんの使用本数の内訳を見ると、2008年（平成20年）度では回収びんの占める割合は約75%もありました。現在でも65%は回収びんが使われています。新びんの使用本数はほぼ横ばいで、1.8ℓびんは繰り返し使用されることが前提の容器であることがわかります。

自主回収認定の維持が課題

容器包装リサイクル法の自主回収の認定基準は、「現状の回収率が80%以上であり、その回収の方法から判断して、おおむね90%の回収率を達成するために適切なものであると認められる場合」とされています。法律が制定された当時は高い回収率を維持していましたが、年々低下しています。2010年（平成22年）度の回収率は88.2%でしたが、2016年（平成28年）度には過去最低の74.5%まで低下しました。自主回収認定を維持するためには、回収率の向上が課題となっております。



出典：1.8L壜再利用事業者協議会